

会 議 録		令和 3 年 7 月 9 日作成	令和 7 年 3 月末日廃棄
会議名	京都府向日町警察署協議会（令和 3 年度第 1 回）		
開催日	令和 3 年 7 月 8 日（木曜日）		
時 間	午後 4 時から午後 5 時30分までの間（90分）		
場 所	京都府向日町警察署 講堂		
出席者	多田会長、山下副会長、丸山副会長、梶委員、吉田委員、高城委員、伊関委員、田中委員、榎本委員、齊藤委員、岡委員、六人部委員 （欠席 柿原委員） 計12人		
	森公安委員		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、地域課長、刑事課長、交通課長 広聴係長 計 8 人		
諮 問 事 項	交通情勢の変化に応じた交通事故防止対策について		
会 議 内 容	<p>1 委嘱状交付式司会 副署長 向日町警察署協議会令和 3 年度第 1 回会議に先立ち、委員に対して委嘱状を交付した。</p> <p>2 会長等の選出 会長、副会長就任挨拶</p> <p>3 会議司会 会長 (1) 署長挨拶 (2) 委員自己紹介 (3) 警察署幹部紹介 (4) 協議</p> <p>諮問事項「交通情勢の変化に応じた交通事故防止対策について」説明した。</p> <p>【委員】可搬式オービスとはどんなものか。 【警察】高速道路でオービスが設置されているのを見られたことがあると思うが、あれを小型化し、かつ、移動できるようにしたものである。</p>		

会 議
内 容

従来、速度取締りには車両の誘導や停車のために相応のスペースが必要で、そうなると特定の場所に偏る。小型化した取締り機器を使うことにより、取締りスペースの確保が困難な場所でも速度取締りができるようになった。可搬式オービスは、住民の皆さんからの「住宅街や通学路を過剰な猛スピードで走る車を取り締まってほしい。」との意見・要望に応えたもので全国的に普及している。

【委員】西国道路から入った向日神社の参道は、向日市の道路であり、生活道路である。朝の通学時間帯、特に、雨の日には傘を差した小学生たちが多く通学する中、幼稚園に送迎する車両が行き交い、いつ事故が起きてもおかしくない状況である。事故が起こってからでは遅く、通学の時間帯に警察官やシルバー人材センターの方に警戒をお願いしたい。交通安全の話があったことから、現状を見ていただき事故が起こらないように対策をお願いしたい。

【警察】ご指摘の場所は、警察も把握している。既に道路管理者と協議をして周辺箇所に歩道柵を設置している。道路環境面の整備については、今後も道路管理者に諮っていく。

【委員】事故発生の割合の中で、自転車の事故が2割近くとの説明のとおり、当たり前な数字だと思う。大半の子どもたちは、交通安全教室で警察官から指導を受けて、その中で教えられたことを守っている。大人の方が、狭い道から飛び出したり、フラついて走る等していることから、車が安全に走行しても事故が多い原因となっているのではないか。自転車も軽車両であり、車両同様の罰則はないのか。

【警察】自転車は軽車両であり、違反があれば検挙する。自転車の検挙数は昨年より増加している。引き続き、交通事故防止を見据え、指導により、マナー向上等を図っていく。

他方、自転車に関係する事故の発生状況を分析すると30代の事故が多く、そういったことを踏まえながら、「取締り」、「啓発」、「教育」を併用しながら対策を講じていく。

【委員】車両は、交通違反で切符を切られ、罰金を支払ったという話をよく聞くが、自転車はそのような話を聞いたことがない。稀に、パトカーが「自転車の運転手さん危険ですよ。」等とマイクで注意しているところを見掛けるが、マナーの悪い人に対して注意だけでは甘いのではないか。自転車に対する取締り方法を考えるべきではないか。

【委員】毎年、私の学校では留学生に対する交通安全教室を警察が実施している。文化の違う国であるが、ルールを認識して守っているようだ。

【委員】先ほど、信号機のない横断歩道の説明の中で“手を挙げて渡る。”との説明があったが、これは子どもだけではなく大人に対しても意思

会 議
内 容

表示をするというルールなのか。

【警察】子どもも大人も同じである。一度にできないこともあり先行的に保育園から実施していき、最終的には、全ての府民に信号機のない横断歩道で手を挙げて渡るという意識が浸透するようにしたいと考えている。長岡京市では、4月から高齢者に対して啓発を始めている。

【委員】車両を運転していると信号機のない横断歩道で、人が横断待ちをしている姿を見て横断歩道の手前で停まっても対向車は気づかずそのまま走り去るのをよく見掛ける。また、私の停止に後続車が気付かず追突されそうになりかえって危険なことがある。運転する立場と、歩行者の立場、両方の立場が分かるようにするにはどうしたらよいか。

【警察】横断歩道を渡る時は、手を挙げるなどのハンドサインを行い、アイコンタクトで渡ることをアピールするようになっている。先ほど、委員さんが横断歩道を渡る時、「後続車が云々」との話があったが横断歩道の手前では徐行するのが基本である。人が渡るような状況であれば停止しなければならない。

【委員】小学1年と小学5年の孫と信号機が付いている横断歩道を渡ろうとしたとき、小学1年の孫は手を挙げた。小学5年の孫は信号機が付いているので手を挙げることなく颯爽と渡っていた。信号機の付いているところでも手を挙げることで歩行者の存在を見せることができ安全に歩行ができると思う。

【委員】信号機のない横断歩道は、ドライバーからすれば歩行者が渡るのか渡らないのかが分からないため、手を挙げて、アイコンタクトをとることの重要性について、よく分かった。そういった教育は高齢者から若者までしっかりと周知していただきたい。

【委員】視覚障害者用信号機の新設について要望をしたときに、「付近の住民から音がうるさい。」との苦情が出るとの話があり、断られたが、音が出ることにより安全に渡れる人がいるのも事実であり、是非お願いしたい。

【警察】実態調査をしっかりと行い、検討する。

【委員】千葉県交通事故で防護柵を設置することをニュースで聞いたが、危険な場所はたくさんあると思う。事故が起こってからでは遅く、同様の箇所を早急に調査し対策を講じていただきたい。また、ルールを守らない人が一定数存在することを前提とした安全対策をお願いしたい。

【委員】子どもの視野の説明があったが、子どもの視野がそこまで狭いのかと気付かされた。また、子どもは友達と話していたり、何かをしていると極端に周りの状況が見えなくなるものである。こういった子供の

特性については、交番だより等で皆さんに周知していただきたい。また、信号機のない横断歩道の話では、ここにいる者がまず確実に遵守し止まることを実践していただきたい。そして、他のドライバーにも広めていただきたい。

会 議 (5) 森公安委員講評

内 容 4 次回開催予定

コロナ情勢もあり流動的であるが、次回の会議は本年9月中旬に予定している。

以 上

第1回京都府向日町警察署協議会の開催状況

